

令和2年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 21

主要事業名	国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」保存活用の推進					作成日	R3.5.11
						担当課名	社会教育課
						担当者名	内田 勇樹
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定		建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	5	伝統文化・芸術の振興		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(2)	歴史、文化遺産（有形・無形）の保存・保全と継承		基本政策	5	学び・楽しみ、地域がつながるまち	
個別施策	①	国・市指定の史跡の整備		基本施策	1	郷土教育の推進	
根拠法令等	文化財保護法						

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	史跡整備事業は、『常陸国風土記』にも記載されている古代の鹿島郡の郡役所跡である鹿島郡家跡（昭和61年8月4日に国の史跡に指定）を史跡公園として整備し、体験学習や社会教育的な場所として活用しながら、歴史的遺産として後世に残すために保存整備及び活用を図る。
目的（事業の目指すところ）	史跡整備事業は、史跡公園として郷土学習や体験学習の場や、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として保存整備・活用を行っていく。 また、国史跡の保存・活用事業は、出土品やこれまでの成果を活用し、直に体験できる活動などを通して歴史に触れ、学べる機会を設定し、国史跡の理解を深めてもらう。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・国史跡の保存を目的とした整備基本計画の策定 ・史跡の適切な保存・環境整備 ・史跡整備検討委員会による計画内容の検討 ・ミニ博物館ココシカで国史跡の内容等の常設展示・企画展示の実施
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	当該史跡は、奈良時代に編纂された『常陸国風土記』に記載されており、鹿島神宮、坂戸神社、沼尾神社、鹿島郡家跡とともに「鹿島神宮境内附郡家跡」として国史跡に指定され、その重要性を周知公開し、効果的な活用が求められている。平成26年度に整備基本構想、平成30年度に保存活用計画が策定され、今後の整備における基礎資料となる整備基本計画の策定が必要である。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R2年度 (実績)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)
	ミニ博物館ココシカ	人	3,753	10,000	10,000	10,000	10,000

投入コスト	全体計画		R2年度 (決算額：千円)	R3年度 (予算額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)	R6年度 (計画額：千円)
	事業経費	史跡整備事業費（コンサル・委員報酬）	6,489	158	300	300	300
		維持管理費（草刈業務委託）	1,185	1,012	1,200	1,200	1,200
		ミニ博物館ココシカ事業（パネル等作成費）	286	250	250	250	250
		合計	7,960	1,420	1,750	1,750	1,750
財源内訳	国県支出金		3,244				
	地方債						
	その他（参加者負担金）						
	一般財源		4,716	1,420	1,750	1,750	1,750
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		2	3	3	3	3
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		0	0	1	2	2

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①史跡整備検討委員会における基本計画の内容等の検討 【比率： 80 %】	・史跡鹿島神宮境内附郡家跡の基本方針となる整備基本計画を策定する。	・史跡整備検討委員会を開催し、内容を検討する。(年3回)。 ・整備基本計画策定に向けてコンサルタントに委託し、計画内容の取り纏めを行う。 ・パブリックコメントの実施。	・史跡整備検討委員会の開催(2回)。 ・鹿島郡家跡現地確認調査における検討会(1回) ・コンサルタントとの協議(15回(うち対面3回))	・基本構想・保存活用計画を踏まえ基本計画を取り纏めた。 ・コンサルタントにパース図・概算費用算出なども作成し、具体的なイメージを作成できた。	(評価をふまえた改善点) ・鹿島郡家跡について整備の方針を精査することができ、イメージや費用の概算が算出できた。	個別事業実績評価点: 71.6 [課題] ・整備の概算費用についてもっと精査する必要がある。 ・県や国と協議を進めていく必要がある。
②公有地の維持管理 【比率： 10 %】	・史跡の一つである郡家跡において、史跡公園整備までの間、適正に維持管理する。 (郡家跡土地公有化面積71665.01㎡) ・土地の公有化	・見学者が見て回れるように郡家跡を管理をする。 ・郡家跡の史跡内で未買地の土地の公有化を進める。	・草刈り等を行い、適正な維持管理ができた。 ・未公有地化土地所有者と協議(2回)	・鹿島郡家跡は、現地状況を見ながら適切な管理を行い、簡易的な遺構表示等を行い、見学者への周知を図った。 ・土地所有者と課題解決に向けて協議を行った。	(評価をふまえた改善点) ・調査成果を踏まえた簡易看板の設置など見学者への周知を図ることができた。	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] ・指定範囲を明確にし、草刈の回数を増やし管理する必要がある。 ・未公有化の土地は、課題解決となる協議を行う必要がある。
③ミニ博物館ココシカの健全運営 【比率： 10 %】	・国史跡の内容等について、常設展示・企画展示を行って、市民や観光客に周知活動を行っていく。	・企画展示の開催や講座の開催、観光客への国史跡の案内などを行う。	・神宮の歴史や鹿島郡家跡のジオラマ作成を行い、観光客等に周知活動を行った。(企画展5回(9回)、特別展2回(2回)、講座2回(4回))	・ミニ博物館ココシカ入館者数 3,753人(R1年度入館者数6,885人)	(評価をふまえた改善点) ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため閉館が多くなったが、開館時に企画展等を開催し、観光客等の集客に努めた。	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] ・小規模の展示スペースしかなく、企画展示等を行うたびに展示替えを行うため、常設展示の周知が少なくなってしまう。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	84.6	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 史跡整備は、整備基本構想および保存活用計画を基に、国史跡の保存する上で基礎的資料となる整備基本計画を策定した。鹿島郡家跡を中心として、ゾーニングの検討や歴史公園としての方針について検討し、イメージ図や概算費用の算出を行い、基本設計への基準となる。収集資料や出土品の保存・活用事業は、出前講座や企画展示・特別展示などをときどきセンターやミニ博物館ココシカで行い、史跡について学べる機会が設けられた。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	史跡整備事業は、今後鹿島郡家跡を活用していくための事業として、また、収集資料や出土品の保存・活用は史跡の歴史を伝えるため事業として継続していく必要がある。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 史跡整備事業は、保存活用計画で定めた基準を基に、公有化の問題や基本設計、実施設計などの整備費用、期間の問題などがある。収集資料や出土品の保存・活用事業は、見学者・利用者を増やすための活動の見直しを検討する必要があるとともに、鹿島郡家跡については史跡範囲を明確にして見学者や周辺住民への周知と理解を図るワークショップ等の開催を行わなければならない。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 整備基本計画を基に今後の基本設計、実施設計の基礎となる資料作りを行い、速やかに史跡整備が行えるようにする。また関係部署との連携や周辺地区住民への史跡理解や協力体制の構築も図れるように事業を進めていく。またミニ博物館ココシカ等を通して、地域の子も達や市民、観光客へ史跡を周知する手法を検討する。						